

事故防止に向けた安全対策 【 なぎなた 】

1 競技特性

なぎなたは、「なぎなた」という長物(2m15cm～2m25cm)を繰り出し、繰り込み、持ち替え、繰り返しながら、開き足、踏み替え足等、体さばきによって相手と攻防を繰り返し、技術を競い合う競技である。その運動は前後左右の直線の運動に終わらず、円運動の加速度を利用する動作が多い。敏捷、巧緻な動作を要求され、身体的、精神的にも高度な修練が必要である。礼儀を尊び、稽古を日々継続し、積み重ねることが大切である。また、生涯スポーツとして適切な競技でもあるため、高校生は、練習する相手が幼児の時もあれば、高齢者の場合もあり得る。そのため、相手の年齢や熟練度にしっかり対応し、練習をしていくことが望まれる。相手を思いやる心や尊重する気持ちがとても大切な競技である。

2 想定される事故事例と予防策

(1) 主として【施設・設備・用具】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・床面の整備や点検不足	・爪の剥離 ・足裏の裂傷	・練習の前後に丁寧にモップかけをする。体育館などは各種支柱の蓋や器具取り付けの穴をビニールテープやラインテープでふさぐ。 ・防具使用後は、風通しの良いところに陰干し保管する。 ・アルコール殺菌スプレー等を使用する。
・防具の保管状態	・湿疹・かぶれ・異臭	・なぎなたの先端は竹製なので、ささくれができる破片が落ち、足裏に刺さる危険性がある。練習の前後に手入れを欠かさないようにする。
・なぎなたの破損	・刺し傷	・スネ当ての一部は竹製なので、割れてひびが入り、ささくれが落ちて、足裏に刺さる危険性がある。壊れる前に補修する。
・スネ当ての破損	・刺し傷	

(2) 主として【活動内容】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・足裏の摩擦 ・初心者や近間での稽古で、防具のない場所を打つ。 ・体さばきが悪く、態勢と打ちが一致しない場合に、捻れが生じて膝に負担がかかり捻挫する。 ・軸手でなぎなたを操作できず、前の手で打つために無理な力が腕や肩に掛かり筋肉痛になる。	・足裏の水泡 ・足裏の皮膚の破れ ・打撲 ・膝関節内側副靭帯捻挫 ・腰痛 ・腕、肩の強度の筋肉痛 ・肩の脱臼	・足の裏の皮膚が弱い初心者に多いケガである。薬品で消毒して清潔に保ち、テーピングをしておく。さらに保護のため稽古用足袋を着用するようにする。 ・未熟さや、相手との間がわからず接近戦が多い場面で起こりやすいので、一人ひとりの技術を向上させる。 ・正しい姿勢と体さばきができるように基本練習を毎日行う。 ・打つ意識が強すぎると、前の手で打つことになる。基本練習を積み、軸手でなぎなたを操作できるようにする。

(3) 主として【環境条件等】が要因となって起こる事故

想定される事故やけがの原因（事例）	傷害例	予防策
・梅雨時期の滑りやすい床 ・乾燥時期のなぎなたのささくれ ・Jアラート発令時の対応	・骨折 ・刺し傷	・湿気で濡れた床を乾かすよう、扇風機を回す。 ・稽古前の各自への注意喚起 ・発令時の対応や様々な場面での避難方法について確認し、事前に周知しておく。また情報収集の手段や、関係者および保護者等との連絡方法について準備しておく。